




平成23年度 鳥取県教育センター スーパーバイザー事業発表会（1）  
教育セミナー「中学校の各教科等における言語活動の充実」実施報告

- 期 日 平成23年8月20日（土）
- 場 所 倉吉体育文化会館 小研修室1
- 参加人数 28名
- 日程及び内容

時 間	内 容	
13:00～13:10	開会・スーパーバイザー事業概要説明	
13:10～14:00	講義「各教科における言語活動の充実」 ノートルダム清心女子大学 准教授 大滝 一登	
14:00～14:20	事業対象校発表 米子市立湊山中学校 教諭 勝本 秀人 八頭町立船岡中学校 教諭 岸田 裕一	
14:40～15:20	実践校報告 八頭町立八東中学校 教諭 中村 明彦 湯梨浜町立東郷中学校 教諭 河田 正彦 米子市立東山中学校 教諭 竹崎 左千子 鳥取市立国府中学校 教諭 清末 幸久	
15:20～15:50	協議	
15:50～16:10	指導助言 ノートルダム清心女子大学 准教授 大滝 一登	
16:10～16:30	まとめ・閉会	

○ 参加者の感想より

- ・学校全体で取り組んでいかねば効果は望めないことを痛感している。教科会で具体的な方策を共有し、実践していくことが必要だと考える。発表の中の生徒の変容に、家庭学習が充実してきたとあったのは興味深かった。見通しを持って授業に取り組むことが家庭学習に活かされていること自体、本来の「活用」や「生きる力」につながるものと考えている。
- ・中核教科の国語を基盤として、他の教科が教科の目標に迫るために、どんな場面でどう言語活動を取り入れていけるか考えていきたい。知識や技能の習得を課題解決にどう活用させれば探求的に深めていけるかがポイントかと思った。
- ・特に「アクションリサーチについての発表など、言語活動の質を見直すための方策のヒントになるものなどもあり、参考にしてみようかと思えます。
- ・「言語活動の充実」については本校全体としての取り組みは不十分であると思えます。今日のお話で特に国語科との連携など本格的に取り組む始めなければ来年に間に合わない感じもしました。学校に持ち帰り、早速検討していこうと思えます。
- ・国語科との連携のことなど今まであまり考えたことがなかったので、学習指導要領を読んで勉強したいと思いました。言語活動はあくまで手段であり、目標を達成するためにどう活用するかが大切だということがあらためてわかりました。
- ・「今、国語でどのような力をつけようとしているか」など、他教科の先生にもっと情報を発信していかないといけない、国語科は他教科の学習の土台となっている、責任重大である、やりがいのある教科だ、とあらためて感じました。

